

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 NPO法人 可児市国際交流協会

1. 事業名称

可児市多文化人材育成推進事業

2. 事業の目的

現在、可児市は、日本生まれ日本育ちの外国にルーツをもつ子どもが増えている。また、その保護者についても子どもの教育・将来のために、長く居住する傾向にある。そんな人々が、地域社会でどう受け入れられるのか、どう受け入れていくべきなのかを本事業の取組の中で検証していく。

幼少の頃から身に付けた日本語力のさらなるレベルアップを目指し、敬語を含んだ上級レベルの日本語を習得する。日本語の職場で活かせる日本語やマナーを身に付け、安定した就職へとつなげていく。

また、日本語力がない外国人ママたちも地域社会の一員となり得るために、子育ての日本語教室を通じて、自信がなく家に引きこもりがちな子育て中の外国人ママたちを取り込み、本事業の取組が終了した頃には、自分たちで行動できるように日本語の学習を支援していく。

その他、農作業を通して、日本の風土や地域住民の関わりを学んだり、防災を通して、日本語学習のみならず、防災の意識啓発も目指していく。

外国人が生活するために、住みよい街、生きがいのある街として、感じてもらうために、地元の日本人にも広く本事業の取組を周知させ、一丸となって、地域における日本語教育の体制整備の推進を図り、外国人の自立と社会参画を目指す。

3. 事業内容の概要

①多文化人材育成推進委員会(以下:推進委員会)

行政、自治会、商工会議所、外国にルーツをもつ生徒が多く在籍する高等学校等で構成される推進委員会を開催することで、外国人の現状把握、相互のニーズを理解でき、実情に即した対応ができる。必要に応じて、個別ヒアリングを行い、本事業の教室及び協会独自の教室運営に反映させていく。推進委員会の連携・パイプを活用し、職場体験学習を実施し、最終的には、安定した雇用に就けることを目指す。

②上級者向け日本語教室

地域にはない、上級者クラスを設置することにより、従来クラスのレベルとしての物足りなさを解消する。(a)日本語能力試験対策 と (b)上級者向け日本語教室 とは、教え方も教える内容も違って来る。本事業の取組では、(b)上級者向け日本語教室のみとし、敬語をはじめ、上級レベルの語彙を増やし、対人コミュニケーション、オフィスでも使える日本語を意識した日本語教育を目指していく。

③子育ての日本語

子育て中の外国人ママを対象とした取組。
日本語を学習したいが、子どもがいるために断念したり、日本人の友だちがいないために、情報が乏しく、子どもを交えた交流会に参加できなかったり、何も知らない日本で子育てをする不安を少しでも解消させてあげたい。教室型ではなく、体験型にして生きた日本語を習得していく。

④地域での交流活動

農作業を通して、日本の風土を理解し、地域住民との関わりを学ぶ。
夏祭りや自治会との連携を図ったり、家庭料理やご近所付き合いの講座で日本人と交流が出来るように、日本と自国の文化を比較しながら、マナーを学習し、さらには、日本語コミュニケーション向上を図る。

⑤演劇ワークショップで伝える防災

多文化演劇ユニット「MICHU」による演劇手法を用いながら、防災に関する日本語を学ぶ。
日本語を学習しながら、防災についての意識啓発にもつなげる。

⑥シンポジウム

本事業の取組を広く住民に周知させるために、本取組に関わった方々に登壇していただき、本取組の成果を発信し、日本語教育体制整備としてこの地域はどうであったかを検証する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	2013年6月24日 12:30～16:30	4時間	可児市多文化共生センター フレビア 研修室	米勢 治子 小島 祥美 松井 かおり 島袋 理子 山田 久子 各務 眞弓 近藤 利恵	・今年度の取組(取組1～6) ・今後のスケジュール	・2013年度は「体制づくり・基礎固め」として本事業に取り組んでいくには、どんな内容でどう進めていくか。 ・昨年度の反省点、既存の教室をうまく絡めていくには。 ・シンポジウムの参加者数を上げるには。
2	2013年9月13日 11:30～14:00	2.5時間	可児NPOセンター 会議室	米勢 治子 島袋 理子 山田 久子 池辺 恭子 各務 眞弓 近藤 利恵	・取組1～5の実施状況 ・取組6:シンポジウムについて	・取組1:人材育成推進委員会は、昨年度と同様、関係(人脈)作りだけになる可能性が高い。来年度につなげていくには。 ・各取組受講率を上げるために、どのような工夫が必要か。
3	2013年11月29日 13:00～16:00	3時間	可児市多文化共生センター フレビア 研修室	米勢 治子 松井 かおり 田室 寿見子 島袋 理子 山田 久子 池辺 恭子 各務 眞弓 近藤 利恵	・取組1～5の実施状況 ・取組6:シンポジウムについて	・ニーズに即した教室を展開するも受講率が低いというのは、学習者のニーズはどこにあるのだろうか。 ・シンポジウムのテーマ・内容・進め方、各取組、目指すところ・取組後、どうなったのか。協力機関・団体は、どこか。
4	2014年1月24日 13:00～15:30	2.5時間	可児市多文化共生センター フレビア 研修室	米勢 治子 小島 祥美 松井 かおり 山田 久子 大澤 まゆみ 寺澤 佳子 田中 スザナ 各務 眞弓 近藤 利恵	・取組について ・シンポジウムについて	・シンポジウムの会場レイアウト、事例報告の方法・内容、シンポジウムの聴講者が、傍観者にならないように登壇者の発言にどんどん参加してもらい、質疑応答を含めた意見交換の場にするには。

5. 取組についての報告

○取組1:多文化人材育成推進委員会 (以下:推進委員会)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

2ヶ月に一回、推進委員会を開催し、この地域において、現状何が不足か、求められるものなど、意見交換を行い、そこで出た意見を日本語教室にフィードバックし、課題をもとに改善へとつなげていく。
推進委員会で得た人脈、パイプを活用し、職場体験先を確保する。
職場体験で培った経験を相互に生かし、今後、雇用へとつなげられるように努力していく。

(2) 取組内容

今年度、職場体験を予定していたが、他事業との関連により、実施できなかった。
可児ライオンズクラブへ本事業の取組の主旨説明を行い、来年度、職場体験につなげられるように関係作りを行った。

(3) 対象者

推進委員会は、日本人で構成。

(4) 参加者の総数 51人

(出身・国籍別内訳 日本 51人)

(5) 開催時間数(回数) 4.75時間 (全 4回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	2013年10月21日 9:00～10:00	1時間	可児市多文化共生センター フレビア	2人	日本人(2)	・主旨説明	・可児市の外国人を取り巻く現状を説明 ・お店の外国人の利用状況について	【相手】 ・ミニストップ 土本 典子氏	【委員】 各務 眞弓
2	2013年10月22日 9:00～10:00	1時間	可児市多文化共生センター フレビア	3人	日本人(3)	・前回の続き ・外国人の活用について	・高校生や大学生のアルバイトは、社会体験と していいと思う。社会と係わることで得られるものは大きい。 ・職場体験実施の可能性について	【相手】 ・ミニストップ 土本 典子氏 ・農業法人福地 ハイラズ 山田正隆氏	【委員】 各務 眞弓
3	2013年11月28日 18:15～19:15	1時間	可児市総合会館分室	40人	日本人(40)	・主旨説明	可児市ライオンズクラブ第1266回例会に出席 させていただき、本事業の取組の説明と 職場体験の受け入れについて呼びかけた。	【相手】 可児ライオンズクラブ会員	【委員】 各務 眞弓
4	2013年2月26日 13:15～15:00	1.75時間	白扇酒造株式会社	6人	日本(6)	・主旨説明 ・工場見学	Earth Babiesの取組、文化庁事業の取組の説明 外国人にみりんやお酒の良さを知ってもらい、今後の文化庁事業につなげられないか、また、人材育成の場として、職場体験できないか検討。	【相手】 白扇酒造 加藤氏・ 山田氏・工場長	【委員】 池辺 恭子 木原 美紀 近藤 利恵

(7) 参加者の募集方法

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



可児ライオンズクラブにて主旨説明



白扇酒造の前にて

(9) 取組の目標の達成状況・成果

推進委員会では、まず、私たちが本事業でどんな目的のもと取り組んでいくのか、主旨を理解していただき、関心を持っていただくことが狙いであり、可児ライオンズクラブの多数の会員企業にお話することが出来た。来年度の職場体験先の協力企業の確保のためにも有意義な意見交換であった。

(10) 改善点について

学習者に、自分に足りない日本語を感じてもらうためにも、来年度は、職場体験を実施し、必要な日本語を学習できるような体制を作っていく。

○取組2:職場に必要な日本語

(1) 体制整備に向けた取組の目標

上級者向けのクラスで教えるためには、指導者のスキルも必要になってくる。毎月1回は、勉強会を開催し、指導者のスキルアップにつなげる。受講者の成果を取組1:人材育成推進委員会につなげ、地域における必要な人材の確保につなげていく。

(2) 取組内容

既にある初中級を対象とした日本語教室では、レベル的に物足りないと感じる幼少の頃から、日本の公立学校で勉強してきた子どもたち、既に日本人と接する仕事をしている人や日本人と接する機会が多い人に向けた中上級者向けの日本語教室。口頭では、説明出来てもメモで簡潔に伝えることが出来ない。履歴書の書き方に自信がない。日本人に失礼のないように接したい。敬語にも関心があるけど使い方が分からない。そんな悩みをすくい上げ、カリキュラムに織り込んだ。日本人側においては、上級者といっても受身形や使役形をスムーズに使えない会話に違和感を感じる。この日本語教室では、日本人側の願いと学習者のニーズをマッチングさせた。

(3) 対象者

日本語を勉強したい中上級レベルの外国人

(4) 参加者の総数 24人

(出身・国籍別内訳 ブラジル 15人, フィリピン 5人, 中国 2人, アメリカ 1人, ペルー 1人)

(5) 開催時間数(回数) 24時間 (全12回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 7月28日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	12人	ブラジル (8) フィリピン (3) ペルー (1)	話題づくり	【日本人特有の天気の話からス ムーズに会話 展開させる】 ・ラジオ天気予報リスニング ・日本地図で県名・地方名・気候 ・天気のおノマトペ ・テレビ画面の速報 ・防災について(警報) ・旅行チラシについて ・会話練習	近藤 利恵	大澤 まゆみ
2	平成25年 7月14日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	13人	ブラジル (6) フィリピン (5) ペルー (1) アメリカ (1)	敬語	・尊敬語 ・謙譲語Ⅰ・Ⅱ ・丁寧語 ・美化語	島袋 理子	—
3	平成25年 7月21日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	12人	ブラジル (5) フィリピン (5) ペルー (1) アメリカ (1)	履歴書の書き 方 面接の受け 方	【適切な表現や言葉遣いで履歴書を書き、 応募のための電話、面接で話す】 ・学習者の現在の就業までの経験を ヒアリング ・チラシで応募する会社を選ぶ ・応募の電話をかける ・履歴書を書く ・面接を受ける	小野木 政子	田中 安希子
4	平成25年 7月28日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	6人	ブラジル (3) フィリピン (3)	職場のこたば 職場のマナー	・あいさつをする ・頼む・断る ・許可をもらう ・ビジネスコラム	長谷川 すま子	小野木 政子
5	平成25年 8月4日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	8人	ブラジル (5) フィリピン (3)	職場の文書	・職場の文書とは ・報告書 ・伝言メモ ・通知文	田中 安希子	長谷川 すま子
6	平成25年 8月11日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	5人	ブラジル (2) フィリピン (3)	電話対応	・電話チャート ・会話例 ・メモの取り方 ・会話ロールプレイ	島袋 理子	大澤 まゆみ
7	平成25年 8月25日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	6人	ブラジル (3) フィリピン (1) 中国(2)	文法の整理	・受身 ・使役 ・授受表現	大澤 まゆみ	—
8	平成25年 9月1日 11:00～ 12:00	1時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	13人	ブラジル (9) フィリピン (4)	情報を読む	・情報とは ・読む「節水」「断水」「消防設備点 検」 「停電工事」	田中 安希子	近藤 利恵
9	平成25年 9月8日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	9人	ブラジル (6) フィリピン (3)	伝えること	・119・110でどう伝えるか ・電子メール ・電話での伝え方	大澤 まゆみ	近藤 利恵
10	平成25年 9月15日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	9人	ブラジル (8) フィリピン (1)	新聞を読むⅠ	・中日新聞・自国の新聞との比較 ・1～32面 紹介 ・「ネット依存」について	島袋 理子	—
11	平成25年 9月22日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	6人	ブラジル (6)	新聞を読むⅡ	・「ネット依存」に関する新聞記事 ・「ネット依存」に関するコラム ・コラムとは。報道、社説の違い ・分からない言葉、読めない漢字 ・事実と筆者意見 ・見出しをつけてみよう	小野木 政子	長谷川 すま子
12	平成25年 9月29日 10:00～ 12:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修 室	6人	ブラジル (5) フィリピン (1)	新聞を読むⅢ	・「ネット依存」まとめ ・意見を言う時、使う言葉 意見を使う・賛成する・反対する ・記事の確認 内容確認・読後の意見・意見交換 ・作文 題・書き方・注意事項	長谷川 すま子	大澤 まゆみ

(7) 参加者の募集方法

チラシ、可児市国際交流協会発行多言語情報誌、メルマガ、ホームページ

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

テキストを用いて、授業を進めるのではなく、講師検討会を開講前に4回設け、テーマも授業内容も全て、今回関わる講師6名からアイデアや意見を出し合い、ゼロから作り上げた。まずは、上級者レベルの外国人が何について勉強したいと思っているのか、アンケート調査を実施し、結果に基づいてカリキュラムを作成した。



授業の様子



修了証授与



記念撮影

(9) 取組の目標の達成状況・成果

チラシを早めに作ったのもあり、開講時26人の応募があった。
アンケート調査でも要望が高かった「新聞が読めるようになりたい」では、授業で、新聞を読むことの他、何を思ったか、どう感じたかを発表し、作文にまとめることで、今回の総仕上げとした。
また、講師が一丸となって、各回の意義を再確認し、同じ方向に向かって取り組めたこと、趣向を凝らしたオリジナルの教材が生まれたことも成果である。

(10) 改善点について

応募者数26人に対して、実際受講されたのは、最多で13人。原因として、毎回何をやるか事前に告知しなかったからなのか。
当初、事前に告知したら、「受講しなくても分かる内容」の回は、来なくなるのではないかという恐れがあったため、告知しなかった。また、12回をシリーズで実施されていると思われ、初回を逃したり、一回でも欠席したら、授業についていけないと思い、来なくなったことが途中の調査で判明した。次年度からは、毎回の詳細を事前に明らかにすることにした。全12回出席された学習者に修了証を授与したが、この日本語教室の取組を取組1:人材育成推進委員会でアピールし、修了証の価値を就職につなげられるように、仕組みを作っていくことが、今後の課題である。

○取組3:子育ての日本語（かにかにお料理教室）

(1) 体制整備に向けた取組の目標

同じ子育て中の日本人、地域外国人の保護者同士が料理を通じて、交流し、日本語を学ぶ。さらに地産地消の大切さを啓蒙しながら、地元でこだわりを持って農作物を栽培し生活をされている農家の方々との交流をきっかけに地域外国人の方々も地域参加しながら子育てをしていけるような取組体制を整備する。

(2) 取組内容

地域特有の特産品を使った料理教室などを体験することで食文化を学び、地域住民の方々と交流しながら、自分たちが暮らす地域への愛着や良さを実感しながら日本語を習得できる積極的な取り組みとする。実際に体験などを入れ地域住民とのやりとりの場面をつくることで、学習した日本語を具体的に吸収し、イメージとつなげることで反復学習するとともに、生きた日本語へとつなげる。

(3) 対象者

育児に関わっている外国人及び地域日本人

(4) 参加者の総数 48人

(出身・国籍別内訳 ブラジル26名、フィリピン13名、日本2名、ペルー2名、ボリビア1名)

(5) 開催時間数(回数) 12時間 (全3回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	2013年7月27日 10:00～12:00	4時間	可児市福祉センター	18	ブラジル(8) フィリピン(7) 日本(2) ペルー(1)	お菓子作りの言葉を知ろう	オレンジタルトを作る。材料の名前、料理に使う日本語を理解し、使えるようにする	木原美紀	粟野 瞳 寺澤 佳子 宮崎 スエリ リベイロ ミドリ 山田 パウラ
2	2013年8月24日 9:30～12:30	4時間	可児市福祉センター	12	ブラジル(10) 日本(1) ペルー(1)	日本の調味料を知ろう	キャラクター行楽弁当を作る。調味料の役割や使い方、材料の名前、料理に使う日本語を理解し、使えるようにする	木原美紀	粟野 瞳 寺澤 佳子 宮崎 スエリ リベイロ ミドリ 山田 パウラ 古木 グレース 野田 亜希子 山口 祐子
3	2013年11月16日 9:30～12:30	4時間	可児市福祉センター	18	ブラジル(12) フィリピン(4) ボリビア(1) ペルー(1)	給食で人気の和食材を使おう	給食でも使われる和食材(ひじき、昆布、鰹節、切干大根、しらたき)の原料を知り、戻し方、調理方法を学び、家庭でも和食を作れるようになる	木原美紀	伊藤 恵 寺澤 佳子 宮崎 スエリ リベイロ ミドリ 山口 祐子

(7) 参加者の募集方法

チラシ設置: 可児市多文化共生センター フレビア

募集告知掲示: 可児市国際交流協会ホームページ

可児市国際交流協会メールマガジン、Facebook(フレビア、Earth Babies)

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

第2回 キャラクター行楽弁当お料理教室

活動目標:

- ・和食で使われる調味料(みりん、お酒、しょうゆ、酢)を味覚、嗅覚で見分け、料理におけるそれぞれの役割を理解し、普段の生活でも使えるようにする。
- ・運動会やお正月などに使われる「重箱」、「風呂敷」を使えるようになる
- ・お弁当に使われる小物を知る(ピック、バラン)
- ・暑い時期のお弁当づくりの危険性について、理解し対策を知る(保冷剤、保冷バック、抗菌シート)

調理内容:

- ・いなりずし
- ・肉巻きやさい
- ・おにぎり
- ・ポテトサラダ
- ・鶏団子
- ・フルーツ

学習内容:

- ① 調味料あてゲーム(みりん、お酒、しょうゆ、酢)
- ② 調味料の役割
- ③ 6種目の調理
- ④ キャラクター作り
- ⑤ 重箱に詰める

活動後の感想:

- ・とてもよかったです
- ・とてもよかったです。とても役に立ちました。学ぶ機会を下さってありがとうございました。
- ・とても楽しかったです
- ・もっと作り方を知りたいです。とても役に立ちました
- ・とてもよかったです。時間が足りませんでした

学習風景:



調味料あてクイズ



第3回実施 給食にできる和食を作ろう

食材提供:

- 里芋・・・NPO法人さといも塾様
- ネギ・・・斎様(地域ボランティア)
- 大根・・・宮崎様(地域ボランティア)

給食アドバイザー:

可児市栄養士 南谷様

活動目標:

- ・地域でとれる農作物を知り、調理、食べる
- ・給食でも使われる和食材(ひじき、昆布、鰹節、切干大根、しらたき)の原料を知る
- ・材料の戻し方、調理方法を学び、家庭でも作れるようになる
- ・出汁の取り方、灰汁の取り方など和食の基本的な調理方法を学ぶ
- ・子供たちが毎日食べている給食の人気メニューを知る⇒給食人気メニューBest5レシピを配布

調理内容:

- ・すきやき、ひじきごはん、切干大根、ひじきごはん

学習内容:

- ① 原材料あてゲーム(ひじき、昆布、鰹節、切干大根、しらたき)
- ② 調理

活動後の感想:

参加者

- ・とてもしっかりと計画されていた。またスタッフのみなさんがとても思いやりがあって、協力し合っていてよかった
- ・息子たちが学校で食べている食事を知ることができて、とても興味深かった。
- ・このような知識を得られる機会を作って頂き、ありがとうございました。
- ・今日学んだ全てがとても満足で、役に立つことばかりでした。親切、丁寧に教えてくれてありがとうございました。
- ・異なる文化や食を知ることができてとてもよかったし、すべておいしかった

講師

- ・私は今回料理教室をやらせて頂き、皆さんと一緒に考えて意見出し合って進めていくのもとても楽しく、貴重な時間になりました！
- ・当日は、普段はどうしても言葉の壁が気になり、あまり話しかけにくい外国の方たちと、料理を通じて触れ合えた事がとても楽しく、出会いに感謝です！本当に楽しかったです！(J)

サポーター

- ・沢山の方と会うことが出来、毎回慌ただしさを感じながらも、楽しい時間でした。サポートをしながらも、普段の生活や、家での食事等の話ができたり、とても楽しかったです。
- ・私自身、普段から自己流の料理の仕方なので、とても勉強になりました！(J)
- ・ポルトガル語をもっと早く勉強しておけばよかった…と少し後悔です
- ・サポートの経験はすごく貴重でした。ああいう場だと国の違い関係なくほんとに普通におしゃべりできて楽しかったです。託児があるって素敵です。行動範囲がほんとに広がります。
- ・育児ママの強い味方だと思います(J)
- ・育児していると、託児がないと自分のことはいつ後回しになってしまう事が多数です。託児付きのお料理教室はお料理の勉強もできさらに気分もリフレッシュになるようにも感じました。
- ・サポートさせていただきましたが、何よりも自分が楽しかったです。
- ・普段なかなかお話する機会がなかった、他のママさんともお話する機会になって楽しかったです。(J)
- ・サポーターとして参加しましたが、すごく勉強になりました。使い方がわからない調味料や食材で料理を作ったり、いろんな方と話したり、とても楽しい時間でした。
- ・少しでも、レストランや食堂で食べていた料理を家庭で作れるなんて幸せでした。(B)
- ・新しい人と出会えたり、Earth Babiesの活動を通じて知っていたメンバーともっと親密になれたことは素晴らしい経験でした。特に日本料理を学べたことはいい経験になりました。みき先生の説明やレシピ、手順書はとてもわかりやすく、このおかげで自分の家でも作ることができました。またこの料理教室に参加したいです。(B)

学習風景



材料あてクイズ(ひじき)



(9) 取組の目標の達成状況・成果

教室を通じて、同じ子育て世代の地域日本人、外国人と一緒に活動し、普段交流のない人々をつなげることができた。さらに、地域の方のご協力を仰ぐことにより、多文化共生の活動にも関心を持って頂くことができた。通常の語学教室では発話をためらう方々も、お料理を通じて自然に日本語を話す機会を作ることができ、生活ですぐに使える日本語の習得につながった。アンケート結果からも、満足度は高く、続けて学びたいと望む声が多く聞かれた。

また、Earth Babiesメンバーである講師、日本人サポーターからも、今回初めて外国人の方へ指導したり、サポートすることによって、相手にわかってもらえるように話す為には、どんな日本語がいいのか(やさしい日本語)、わかりやすい資料とは?など、。回を重ねる中で自然と外国人の方の立場に立って考える良い機会となったことも成果である。今後も今回構築できた体制を活用し、取組を続けていきたい。

(10) 改善点について

運営に関しては、初回は実施後に多くの改善点(時間配分、スタッフ配置、当日キャンセル)があったが、見直し、改善を重ね、最終的には満足頂ける教室運営ができた。

※満足度アンケート結果(第1回 82%、第2回 82%、第3回 100%、)

また、活動内容としては、多くのことを伝えたいと思うがゆえに、情報量が多すぎ、参加者に十分に伝えることができなかった(夏季の食べ物の扱い方や食中毒予防方法など)。伝えたい内容を絞り、別資料等を準備すべきだった。

また、地域の農作物をもっと取り入れ、さらに多くの地域の方とともに運営できる体制を築いていくことが今後の課題である。

○取組4:地域での交流活動

①自治会との連携「夏祭り」への参加

(1)体制整備に向けた取り組みの目標

地域交流として、2軒の外国人住人が加入している「大森台自治会」での夏祭りや野菜作り等の活動を通して住民同士が日本語を交えた交流を促進し、地域の風土を理解し、相互のコミュニケーション能力を高める。近所付き合いやマナーなどを学習する。日本人住氏側「こつこつ」伝わること」(コミュニケーション)

(2)取組内容

- ①「夏祭り」への参加
- ②-1野菜づくりで交流
- ②-2野菜づくりで交流から「家庭料理」講習

(3) 対象者

大森台自治会及び近隣住民、在住外国人

(4) 参加者総数

76人

(出身・国籍別内訳 ブラジル人13人、フィリピン人52、ペルー2名、日本人9人)

(5) 開催時間数

実施回数(時間) 7回 18時間

(6) 取組の具体的な内容

① 夏祭りへの参加

- ・大森台自治会夏祭りで交流するために、自治会役員と事前打ち合わせを行い調整した
- ・盆踊りの練習会を行い、定番の盆踊りを地域の方に指導してもらった
- ・盆踊りを楽しむために、うちわづくりをした
- ・祭り当日は、大森台自治会に加入しているフィリピンの家族が所属するというフィリピンコミュニティ団体「Organization of Cordillerans in Japan」(OCJ)が「ゴング」という伝承舞踊を踊り、一緒に輪になって踊った。

盆踊り練習

7月6日(土) 19:00~20:00 参加者 18人

7月13日(土) 19:00~20:00 参加者 17人

7月20日(土) 19:00~20:00 参加者20人 (うちわづくり)

盆踊り

7月28日(日) 18:00~ 参加者35人



②-1 野菜づくり

8月17日(日)6:00~11:00 種まき

11月4日(月祝)7:00~10:00 収穫

・「OCJ」は、以前から大森台地区で野菜づくりを行っていたが、フィリピンの畑作りと日本の畑作りの違いもあり地域から意見がでていたので、可茂農業普及員の方の指導をいただいた。

・予定していた野菜は、開始時期の関係で取り掛かれなかったが、知り合いからミャンマーのそばの種をいただいた。麻薬撲滅のために品種改良に取り組まれた種で、「そば」ならば収穫も早いことから、栽培に取り組んだ。畑が、以前は田んぼだったこと、農耕機械がないこと、草だらけで人力だけで作業は大変だという指導員の意見はあったが、フィリピンで農業経験のある人たちが多く、草を引き、畑を耕し、「畝」高く作り、溝をほる、種をまきかぶせ、水をまく作業を、指導のもと 人力だけでやりとげた。鳩害防止のため、黒いビニール袋で鳩おどしを作ったりの苦労もあったがみごとに花を咲かせた。収穫は、台風、大雨の影響もあり収穫時期を越してしまい、実はほとんど落ちてしまっていた。

②-2

9月7日10:00~12:00 「家庭料理」

・計画では、畑づくりで収穫した野菜を使った料理の交流を予定していたが、変更し要望の多かった定番の家庭料理「味噌汁」や「にくじゃが」などの講習と交流会に切り替えた。大森台自治会や広く参加者を公募し実施した当日は、通訳を入れず伝え合うことも目的とした。

料理の指導は、市栄養士OBや食改協で活動していた人たちで作った「ミールの会」に依頼子どもの料理教室で活動する人たちなので、指導方法が子どもにもわかりやすい「やさしい日本語」になっており、レシピもイラストで板書されており、外国人にも理解しやすかった

(7) 参加者の募集方法

・チラシ、メールマガジン、多言語情報誌(ウニドス、マグカイサ)、facebook

(8) 特徴的な活動

- ・自治会を巻き込む活動や交流でコミュニケーションを高める
- ・普段あまり外国人と交流のない人たちに支援者となってもらう仕組みづくり
- ・交流によって知らない者同士が会おうきっかけをつくり、多様化する地域住民を認識する

(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・地域交流のこの取組全体を通じ感じたことは、フィリピンコミュニティの人たちは、生活者としてかなり自立して生活している。持ち家の人も多く、ご近所つきあいではわからないことが多いと言っていた人も、「お隣に聞く」ことで解決する。さらに、大森台自治会では、2軒の自治会加入の外国人家庭にサポーターをつけており、声掛けをかかさない。地域の行事やイベントに参加を促すというコミュニケーションの取り方は参考になる
- ・夏祭りに参加した外国人の子が、「私も浴衣着たい」とつぶやくと近くにいたおばあさんが、貸してあげると家に連れて行ってくれた。ゆかたを貸してくれたが、同居していたのは、フィリピン人の親子であった
この自治会では、独居老人と家が借りられない外国人のハウスシェアを、民生委員さんが仲介されていた。
きばるところなく共生をすすめる地域であり、他地域にもひろめたい活動である。
- ・「祭り」や「野菜作り」「料理作り」の動作や作業は、見てできることが多い。言葉がわからなくても一緒にでき、達成感もある。顔見知りになることで、次のコミュニケーション手段に進むことができる。
野菜づくりに関しては、季節との闘いとなってしまい、当初予定していたことができなかった。そばも収穫時期を逸し、そば打ち体験までできなかった。

(10) 改善点

- ・自治会やコミュニティ団体との調整のタイミングをのがさないようにする
- ・広報かには地域のメディアを活用する

③ご近所付き合いマナー

(1) 体制整備に向けた取組の目標

生活者としての外国人が、お宅訪問時のマナーや自治会など日本のご近所付き合いのマナーを知ることにより、地域の活動に参加しやすくなるようになること。

(2) 取組内容

ご近所付き合いのマナーの中からテーマを5つ選び、ゲームを楽しみながら知識を身につけたり、寸劇を見て自分の立場に置きかえて考えながら、テーマについての理解を深めた。

- ①自治会について ②お宅訪問マナー ③結婚式 ④お葬式 ⑤お祭り・お正月

(3) 対象者

外国人、日本人

(4) 参加者の総数 36 人

(出身・国籍別内訳) ブラジル8人、フィリピン8人、ベトナム4人、イタリア3名、ペルー2名、インドネシア2名、日本人9人)

(5) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 5 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 8月25日 15:30~ 17:30	2時間	可児市総合会館 分室	21人	フィリピン(5) ブラジル(4) ベトナム(4) インドネシア(2) 日本(6)	自治会って何?	・参加者の国のあいさつ(握手やハグなど)を体験しながら、あいさつするときに大切なことを考えた。 ・市役所職員と元自治会長を講師に迎え、自治会について、基本的な事柄をお話いただいた。その後、参加者が疑問に思っていることを質問し、講師のお二人に回答いただいた。	山田久子 松井かおり 住吉エリオ洋一 可児市役所 地域振興課 勝野正規氏 元自治会長 高田孝氏	鈴木まみ

2	平成25年 9月8日 15:00～ 17:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア	10人	フィリピン(4) ブラジル (3) ペルー (2) インドネ シア(1)	お宅訪問マ ナー	<ul style="list-style-type: none"> ・割り箸の正しい割り方、持ち方を 学び、実際に給やボタンなど リレーで渡していった。 ・日本人の家に訪問する場面や 食事をする場面、MACHI メンバーが演ずる芝居で観て、 良いマナー・悪いマナーを考えた。 	山田久子 鈴木まみ	住吉エリオ洋一 盛岡勝治
3	平成25年 9月22日 15:45～ 17:45	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア	3人	ブラジル (2) 日本(1)	結婚式	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人と結婚する場合、 プロポーズから結婚式まで どんな準備が必要なのか、 考え発表した。日本の スタンダードな例も紹介した。 ・実際の日本の結婚式の写真を 見ながら、いろいろな結婚式の スタイルを紹介した。 ・自分が結婚式に参列する場合の マナーについて、招待状の対応、 服装、お祝い金の準備など 実際の品物を使いながら考えた。 	山田久子 渡辺直子	住吉エリオ洋一 鈴木まみ 盛岡勝治
4	平成25年 10月6日 15:30～ 17:30	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア	4人	ペルー (2) ブラジル (1) 日本(1)	お葬式	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の国の葬儀について紹介し て もらい、日本の葬儀との違いを確認 した。 ・自分が葬儀に参列する場合のマ ナーについて、服装や香典の準備な ど実際の品物を使いながら考え た。 ・葬儀場でふるまいについて、受 付の場面と焼香の場面を実際の品 物 を使いながら体験した。 	山田久子 河野悟	住吉エリオ洋一 鈴木まみ 盛岡勝治
5	平成25年 10月20日 15:00～ 17:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア	10人	ブラジル (4) イタリア (2) スイス(1) 日本(3)	お祭り・お正 月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本やいろいろな国のお祭りをス ライドで見て、どこの国のどんなお祭 りか考え 発表した。 ・日本の地域のお祭りで使う「神輿」 「はっぴ」などを紹介した。 ・お正月について、参加者の国では どんなことをしたり、食べたりする のか発表してもらい、日本のお正月 に ついて紹介した。 ・新年のあいさつ「明けましておめで とう」を 日本語と参加者の国の言葉 でお互いにあいさつした。 ・年賀状を作成した。(後日発送し た) 	山田久子 住吉エリオ洋一 鈴木まみ、	盛岡勝治

(7) 参加者の募集方法

チラシ、Facebook(第3回のみ)

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

「参加者が体験」することをポイントにプログラムを作成した。第1回「自治会って何？」の回では、市役所の方と元自治会長の方にお越しいただき自治会について参加者からの質問にお答えいただく形で進めた。第2回「お宅訪問マナー」の回では、お行儀の悪いお箸の使い方などをMACHIによるお芝居で見て、参加者に間違い探しをしてもらったり、第3回「結婚式」の回では、自分が結婚する場合に結婚式までどんな準備が必要なのかを考えたり、結婚式の写真を見て雰囲気を感じてもらったりした。また第4回「お葬式」の回では、葬儀にふさわしい洋服選びや、のし袋選び、葬儀での焼香を礼服や焼香台など実際の道具を使って体験してもらいました。そして第5回「お祭り・お正月」の回では、年賀状を作成した。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

アンケートより「いろいろな日本のマナーについて知ることができた。」「文化の違いを知ることができた。」「貴重な体験ができた。」など概ね好評をいただいたが、地域の活動への参加意欲までは残念ながらつなげることが出来なかった。しかし、今回「ご近所づきあいマナー」についてのワークショッププログラムを作成・実施したことで、日本のマナーについて再確認でき、外国人住人が疑問に思うポイントなど知ることができた。今後の活動に役立てていく。

(10) 改善点について

5回シリーズではあるが、すべての回に参加した人はいなかった。地域参加として取り組みやすい「近所の人へのあいさつ」などは毎回違った方法でワークショップに取り入れて、どの回に来ても地域参加の意識をもってもらうようにする。



ミャンマーのそばの種



そばづくり



○取組5: 演劇ワークショップで伝える防災

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
災害時に災害弱者となりうる外国人居住者の防災意識の向上と災害時の情報伝達
- (2) 取組内容
「災害が起こった時、自分自身を守るためにどうしたらいいか」をテーマにワークショップを実施した。
イス取りゲームの要領で災害が起こった時のとっさの行動と災害が起こる際に聞こえてくる音を確認し、日用品が描かれているアイテムカードを使って避難所に行く時に何を持っていけばいいのかを考える
避難所シュミレーションゲームを行った。
- (3) 対象者
外国人、日本人
- (4) 参加者の総数 78 人
(出身・国籍別内訳 ブラジル25人、フィリピン14人、ペルー6人、ベトナム5人、イスラエル4人、中国4人、インドネシア2人、アイルランド1人、スペイン1人、インド1人、日本人15人)
- (5) 開催時間数(回数) 9.5 時間 (全 5 回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 9月1日 9:00~1 1:00	2時間	可児市多文化 共生センター フレビア	13人	フィリピン(4) ブラジル(5) スペイン(1) ペルー(3)	避難訓練+防災	・災害発生時の行動をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認した。 ・施設内で火災が起きた想定で避難訓練を実施。避難場所まで移動し、点呼した。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードを選び、必要なものを考えた。	山田久子 住吉エリオ洋 鈴木まみ 盛岡勝治	
2	平成26年 1月18日 13:00~ 15:00	2時間	可児市総合会 館分室 研修 室	13人	ブラジル(13)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードを選び、必要なものを考えた。	山田久子 住吉エリオ洋 多田美保子	

3	平成26年 1月26日 14:00～ 16:00	2時 間	八百津町防災 センター	19人	フィリ ピン(4) イスラ エル(4) 中国(3) ベトナム (2) ペルー (1) 日本(5)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲ ームをしながら学び、同時に災害発生 時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから 何を持っていけばいいか、日用品が 描かれているアイテムカードを選 び、必要なものを考えた。	山田久子 住吉エリオ洋 — 多田美保子	
4	平成26年 2月2日 13:00～ 14:30	1.5時 間	美濃加茂市生 涯学習センター	11人	フィリ ピン(2) ブラジ ル(2) ベトナム (2) アイル ランド(1) 日本(4)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲ ームをしながら学び、同時に災害発生 時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから 何を持っていけばいいか、日用品が 描かれているアイテムカードを選 び、必要なものを考えた。	山田久子 住吉エリオ洋 — 多田美保子 松井かおり	河野悟
5	平成26年 2月9日 13:30～ 15:30	2時 間	可児市多文化 共生センター フレビア	22人	ブラジ ル(5) フィリ ピン(4) インド ネシア(2) ペルー (2) ベトナム (1) インド(1) 中国(1) 日本(6)	防災	・災害発生時の行動をイス取りゲ ームをしながら学び、同時に災害発生 時に聞こえてくる音を確認した。 ・避難所に行く時、家にあるものから 何を持っていけばいいか、日用品が 描かれているアイテムカードを選 び、必要なものを考えた。	山田久子 住吉エリオ洋 — 多田美保子	

(7) 参加者の募集方法

チラシ、日本語教室の生徒への呼びかけなど

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

イス取りゲームの要領で、会場中にバラバラに置いたイスを渡り歩きながら、ファシリテーターの「地震」の合図でイスの下に頭を隠すなど、災害時にどう行動すればいいのかが学びます。最初はぎこちない動きの参加者も繰り返し行うことで動きが素早くスムーズに行えるようになります。避難所シミュレーションゲームでは、参加者ひとり一人が自分に必要なものを考えた後、参加者全員で避難所に持っていくベストなアイテムは何だろうと考えました。歯ブラシを持っていくか、ガムを持っていくか、活発な議論が行われた回もありました。第1回のワークショップでは避難訓練も実施した。火災を想定し館内放送後に避難場所まで移動しました。学生の参加者は学校で訓練をうけているようでしたが、社会人の参加者からは「母国でもやったことがなく初めての経験、外出中に何かあった時に役に立つ」という話がありました。



警報訓練



避難訓練



安全なところへ移動



屋外点呼



防災アイテムカード
の選択



非常食体験



(9) 取組の目標の達成状況・成果

避難訓練の経験の有無や在日期间、その人の立場などによって防災の知識や経験は違ってくるが、いろいろな人が一緒にゲームに取り組むことで、知識や経験を共有することが出来ました。アンケートからも「何かあった時、どうすればいいかわかった。」「避難所にもっていきものわかりました。家に帰って用意したい。」「家族で話し合いたい。」などの意見を多数いただいた。防災をより自分の問題ととらえ、防災の意識向上につながったと思う。

(10) 改善点について

参加者の中には「避難所」という言葉を初めて聞いた、という人が少なくない。言葉で説明を入れているがイメージがつきにくい参加者もいるので、文字や写真を使ってよりイメージをつかめるよう工夫する必要がある。

○取組6:シンポジウム

(1) 体制整備に向けた取組の目標

本事業の取組の中心を担った方々と地域住民、多文化人材育成推進委員会が相互認識をする。聴講者に住民を巻き込むことで、よりネットワークを広げる。

(2) 取組内容

本事業の取組に関わり、中心を担った方々に登壇していただき、取組での成果、問題・課題などを議論し、地域における日本語教育体制整備としてどうであったか、検証する。

(3) 対象者

本事業の取組に関わった外国人及び日本人
地域住民、行政、地域企業、日本語関係者

(4) 参加者の総数 57人

(出身・国籍別内訳 日本 40人、ブラジル 8人、フィリピン 8人、ペルー 1人)

(5) 開催時間数(回数) 2.5時間 (全 1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	2014年2月16日 13:00~ 15:30	2.5時間	可児市多文化共生センター フレビア 研修室	57	日本(40) ブラジル(8) フィリピン(8) ペルー(1)	住みよい地域づくり と人づくり	I部 本事業取組事例報告 II部 参加型円卓会議	I部 【司会】 松井かおり 【登壇者】 近藤 利恵 池辺 恭子 各務 真弓 山田 久子 II部 【発題者】 米勢 治子 【進行】 小島 祥美 【登壇者】 坪内 豊 青山 勝治 アヒトン フェルナンド 田中 スザナ 島袋 理子 近藤 利恵	栗野 瞳 渡辺 美也子 吉田 よしえ 馬木 照子 ダニー キミコ

(7) 参加者の募集方法

チラシ、可児市国際交流協会発行多言語情報誌、メルマガ、ホームページ

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

第Ⅰ部では、本事業の取組について事例報告を行った。
第Ⅱ部では、会場の参加者がただ、パネリストの話を聴くだけで終わらないように、参加者が意見を出しやすいようなレイアウトにした。
前列にパネリストがずらりと並ぶような形ではなく、
パネリストの周りを会場参加者が囲むような形で着席するスタイルにした。
発題者から「個人のもつネットワーク」について、テーマが出され、
会場から出たご意見を巻き込むような形で進行された。
可児ケーブルテレビが取材に来ており、フラッシュニュースで、シンポジウムの様子が放映された。



第一部:事例報告



第一部:会場の様子



玄関立て看板



第二部:参加型円卓会議



第二部:会場参加者からのご意見



登壇者

(9) 取組の目標の達成状況・成果

可児市国際交流協会が主催する「地域日本語支援者養成講座」や「日曜日の日本語教室」に絡めたため、多くの参加者が集った。
事例報告では、関係団体のEarth Babies(多文化共生育児サークル)やMACHI(多文化劇団ユニット)と、可児市国際交流協会の既存の教室、文化庁の取組との関連が明確化された。
会場や登壇者に外国人の参加者があった。今回、本事業の取組に関わらなかった方々のご意見も積極的に聞けるような進行スタイルをとったことにより、従来のような日本人だけの偏った意見でまとまることはなかった。
外国人のニーズはどこにあるのか。教室運営の企画立案・チラシ作成から、外国人に関わってもらい、外国人目線で、学習者を呼び込む。日本人だけでは、気が付かないことを知るチャンスになる。

(10) 改善点について

ニーズはどこにあるのか。このシンポジウムで議論できたら良かった。
日本語教育専門家、行政、外国人、指導者が集う場で、皆でまちづくり、教室作りが出来るように今後に向けた検証を行うには、時間が足りなかった。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

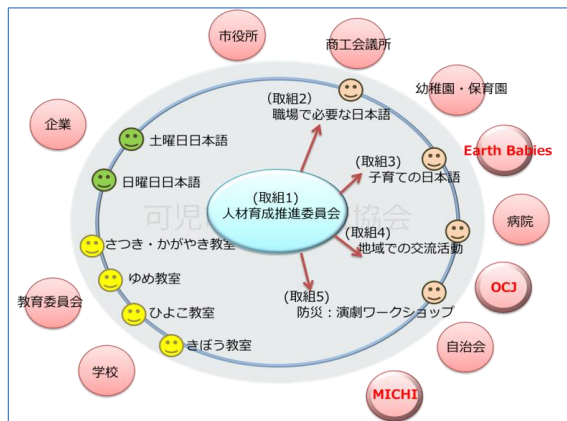
人材育成という観点から、学習者のみならず、指導者側のスキルアップ、意識向上が得られたことは、本事業の取組を実施するにあたり、とても意義あるものであった。

(2) 事業目的の達成状況

教室形式の日本語教室にとらわれず、活動の中での、日本語習得を目指した。学習者が教室を離れても、習得した日本語で、人とつながり、社会の一員として自立できるような授業展開をすることが出来た。指導者一人一人が、本事業の取組の目的をしっかりと理解して取り組んだことが、学習者への問題意識の考察、取組への意欲向上へとつながった。

(3) 地域における事業の効果、成果

可児市国際交流協会には、高校進学を目指す：さつき・かがやき教室、小中学校に就学するため：ゆめ教室、小学校に入学するため：ひよこ教室、既に小中学校に通っていて補習をする：きぼう教室などの子供向けの教室や、四技能習得に対応した：土曜日日本語教室、身近なテーマの会話習得：日曜日日本語教室などの成人向けの教室がある。さらに本事業の取組1～5があり、昨年度までは、単独運営で、各々が実施していた。さらには、習得した日本語は、教室内だけに留まることが多く、何のために、日本語教育をしているのかが、見えづらかった。今年度は、教室間の横とつながりを意識した。既存の教室の指導者に本事業の取組を周知させ、積極的に本取組に参加してもらった。教室間がつながったことによって、各々の教室が既に連携先として持っている、行政・企業・学校・保育園・病院・自治会などが、自分の教室にもネットワーク構築へと結び付けられる。本事業の取組をきっかけに、協会全ての教室が、「生活者として」の日本語を習得するための目標や意識を掲げられるようになった。



(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

昨年度、どの取組においても、学習者の参加率が低いことが反省点であったため、今年度は、参加率を上げるための工夫を凝らした。開講前にアンケートを実施し、ニーズに即したカリキュラムにしたり、楽しく参加しやすい内容にしたりした。

ii 今後の課題

外国人のニーズに合わせたつもりであっても、日本人目線で開講の準備をすると、実は、ニーズから離れていることに気が付かないのかもしれない。準備の段階から、外国人にサポートしてもらい、外国人目線で、日本語教室を運営できるのではないかと。取組1: 人材育成推進委員会においても、外国人に入ってもらい、日本人の考え、外国人の考えをマッチングさせていくことも大事である。

iii 今後の活動予定

今年度実施できなかった職場体験を行う予定。取組の成果・課題検証の場をシンポジウムという形ではなく、ワークショップ型・模擬日本語教室体験・日本語教室紹介ブース型・見学会 など、趣向を凝らした形で、地域住民や日本語教育関係者に発信していきたい。